

令和2年6月部長会議 会議録（要旨）

- ◇日 時 令和2年6月1日（月） 午前8時35分から午前9時34分まで
- ◇会 場 We b会議のため自席
- ◇出席者 市長、副市長、教育長、上下水道事業管理者、総務部長、企画政策部長、財政部長、地域・市民生活部長、保健福祉部長、長野市保健所長、こども未来部長、環境部長、商工観光部長、文化スポーツ振興部長、農林部長、建設部長、都市整備部長、会計局長、教育次長（行政及び教育）、上下水道局長、消防局長、議会事務局長、危機管理防災監、公有財産活用局長、市長公室長及び関係課職員

◇会議内容

<市長あいさつ>

- ・6月4日から市議会6月定例会が始まる。新型コロナウイルス感染症対策や復旧復興関連の経費を盛り込んだ一般会計補正予算案などを提出するが、議員からは新型コロナウイルス感染症対策や、出水期を前に災害関連の質問が多く出されることが予想される。
- ・新型コロナウイルス感染症対策に関して、熱心な質問をいただくということは、市民にとって感染に対する不安や、家計・経済への影響が、いかに大きいかということの現れでもある。各部局長には、市民に寄り添った、丁寧な答弁に努めてもらいたい。
- ・先週、複合災害を想定した避難所の模擬開設を視察した。避難所における「人と人との距離の確保」などを実際にを行い、避難所においてどのような感染症対策が必要なのか確認を行った。避難所の収容人数が少なくなるので、より多くの避難所設置の必要性と、設置方法を基本から変えなくてはならないと感じた。
- ・今後、災害と疫病といった複合災害を頭に入れて対応することが、喫緊の課題となる。各部局においても、どんな災害が想定されるかを考え、それぞれ所掌事務において、災害発生時の感染防止対策の検討を早急に進めてもらいたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域経済は深刻な状況となっている。特に本市は、昨年の令和元年東日本台風災害による影響と相まって、ダブルパンチを受けている状況である。新型コロナウイルスが完全に終息するまで「新型コロナウイルスとの共生」を前提に、経済の回復を進めなければならない。
- ・市民にしてみれば、新型コロナウイルス感染症が完全に終息していない中で、どう行動してよいか分からないと思う。また自粛生活により、自宅での食事や映画鑑賞、インターネットでの買い物にも慣れてしまった。テイクアウトでは、飲み物の売上げにつながらないし、インターネットでの買い物では、まちの商店の売上げにならない。
- ・各部局長は、これから率先してまちに出て買い物をしたり、食事に出かけたりするなど日常生活を再開するとともに、部下の職員にも、週に1回は、家族や友人、同僚などとの食事や飲み会を楽しむことを促してもらいたい。

1 報告事項

長野市職員の懲戒処分等の指針の一部改正について（総務部）

標記事項について、総務部長から報告を行った。

○質疑

〔市長〕大事なのは、ハラスメントを受けた側の感じ方である。こういうことを言ったりやったりした場合、相手はどう感じるかということの日頃から考えることが必要である。

〔総務部長〕職員間の信頼関係が一番大切だと思うので、まずは良い関係を築いてもらいたいと思う。

〔市長〕職員が、ハラスメントに関して相談したい場合、相談窓口はあるのか。

〔総務部長〕職員課に相談窓口を設置しているので、そこに相談してもらえれば必要な対応を行っていく。

2 協議事項

長野赤十字病院 新病院建設予定地の承諾について（保健福祉部）

標記事項について、保健福祉部長から説明し、協議を行った。（資料1参照）

○質疑

〔保健所長〕長野日赤の新病院建設について検討する場合、大事なことが2点ある。1点目は、基幹災害拠点病院に指定されているが、その役割を更に強化すべきということである。昨年の台風災害のような場合の対応に加え、今回の新型コロナウイルス感染症といった感染症にも対応してもらえるよう、改めて市として依頼していく必要がある。

2点目は、地域医療構想において、効率的な病院経営を目指すという流れが示され、さらに人口減少も進むと見込まれる中で、今後の医療需要をどの程度見込んでいくかということである。長野医療圏でも、2025年に病床数をどの程度にするかという数が具体的に示されているので、長野日赤としても、その数は意識してほしいと思う。併せて、他の病院との連携の中で、どのような機能を新病院に持たせるのかということも検討が必要である。

こういった点を踏まえて、市としての対応を考える必要がある。

〔保健福祉部長〕1点目の長野日赤の機能については、これまでの話合いの中で、既存の病院機能の充実を目指すということを確認している。ご指摘の点を踏まえ、引き続き長野日赤と話し合っていく。2点目についても、これまでの検討会議で話し合ってきた。地域医療構想との整合性を図りながら、他の公的病院との連携を含め検討していきたい。

〔副市長〕長野日赤の今ある機能を、そのまま新しくするのではなく、今後50年間にわたる地域の拠点病院としてどういった機能が必要なのか議論が必要。市を挙げて検討すべきことだと思うので、関係部局の協力をお願いしたい。

○今後の方向性

原案を了承

3 その他

「長期戦略2040」について（企画政策部）

標記事項について、企画政策部長から説明を行った。（資料2参照）

○質疑

〔市長〕バックキャストイングの手法を用いて取り組むとあるが、各部局が今、何をやるべきか具体的な事業を示してもらいたい。

〔企画課長〕この長期戦略は、主に産業分野をターゲットとしており、この分野で取り組む内容は戦略の中で示している。それ以外のものについては、総合計画及び各個別計画の中で、事業に取り組む形を考えている。

〔企画政策部長〕現在、関係部局では戦略マネージャーと個別に打合せを行っている。その中で、できるものから形にして予算要求等につなげていきたい。

〔副市長〕戦略マネージャーは、豊富な知識、経験、人脈を有しているので、計画レベルだけでなく実施レベルでも協力いただくべき。この点を踏まえ、各部局は打合せをしてもらいたい。

「平均所得倍増」という目標は、分かりやすく良い目標だと思う。

〔企画政策部長〕現在、戦略マネージャーは、市内の大学などとの関わりも広げているので、そういった人脈も活かせるように取り組んでいきたい。

〔地域・市民生活部長〕実施主体の検討はこれからだと思うが、しっかり検討し明確にしてほしい。

〔企画政策部長〕民間を巻き込んでいかないと目標達成は非常に厳しいので、関係者との連携を強めていきたい。

以上